

【アゼルバイジャン経済トピック第 117 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 12 月 8 日

アゼルバイジャンの環境保全活動～IDEA とリサイクル製紙工場～

アゼルバイジャンが経済成長を続ける中、同国政府は国内、広域、地球規模の環境問題への解決に積極的に関与しています。その取組は、国内の生態系と生物多様性の保全、カスピ海の汚染からの浄化とチョウザメ等水産資源の保護・回復、植林活動、環境問題に関する若年層の啓発・教育、国際イベント開催など多岐にわたります。

これらの取組を官民連携、国際協調の下で進める政府系組織として IDEA（環境行動のための国際対話）Public Union があります。2011 年にレイラ・アリエバ女史（アリエフ大統領の長女）が創設し、今日まで様々な環境関連プロジェクトやイベントを実施してきました。

（参考）IDEA の取組 <http://www.ideacampaign.org/>

IDEA のイニシアティブに応える形で始まった民間事業の一例として、当国の大手ビジネスグループ（財閥）である Azersun（アゼルスン）のリサイクル製紙工場が挙げられます。工場はスムガイト市（バクー北隣 30km の工業都市）にあり 2014 年に竣工。生産能力は 5 万 t/年で様々な厚さの厚紙を 100%古紙・段ボール等からリサイクルで製造しています（全国各地に設置されたリサイクル・ステーションで回収）。工場長曰く、紙 1t の製造に 17 本の木材が必要なので、その分だけ森林資源保存に貢献している由です。

因みに、このリサイクル製紙工場では、日本式の「カイゼン」活動や「5S」が導入されており、従業員の士気と規律、生産性の向上に役立っているとのこと。

（写真）「カイゼン」ボードと「5S」標識



（以上）